

瀋陽だより

2016年1月

報告者：東北育才学校
高井 奈央子

HAPPY NEW YEAR は大晦日に

12月31日、東北育才学校高校部の生徒たちが、クラスで年越しパーティーを開きました。

ちょうどテスト期間直前だったので、生徒たちは勉強で忙しかったと思うのですが、こうした楽しいことの準備をするのはよい気分転換になったようです。

中国の学校には日本のような形の部活動はありませんが、生徒たちが自主的に結成したクラブのようなものがありますし、クラブが無くても自分で外部の教室に通って運動や音楽を楽しんでいます。

この日、演奏と歌を披露した生徒たちも、各自音楽教室に通って日々演奏の腕を磨いています。日本型の部活動に頼らなくても、趣味で人生を彩ることは可能です。きっと大人になってからも、趣味に仕事に家庭にと、豊かな人生を送ることができるでしょう。

彼らが将来、様々な要素をバランスよく組み込んだ人生を送るために趣味や習い事はとても大事なことであり、実際に趣味を持ち続けることができる環境にいると思います。

日本では、残業やサービス残業が常態化し、それによって個人が評価されるという風潮がありますが、中国の人々からするとそれは信じられないことです。実際に生徒の家に招待されたことが何度かありますが、「6時には家族そろって食卓に着き、食事が終わったら夫婦は体育館へバドミントンをしに出かけ、子どもは寮へ戻る」という生活スタイルでした。

勿論、育才学校の生徒の多くはある程度裕福な家に生まれ育った子どもたちなので、私が見たのは「比較的豊かな家庭」の一例に過ぎません。しかし、人生が仕事に塗りつぶされても仕方ないような環境にいた私には、この生活スタイルがとても輝いて見えました。また、男女平等度ランキングで中国が日本より上位にあることも、このライフスタイルと関係しているのでしょうか。残業の無い生活は、家事育児の負担平等化をもたらします。私も何度か、「お父さん」がつくった夕飯を頂きました。とても美味しかったです。

勿論、育才学校の生徒の多くはある程度裕福な家に生まれ育った子どもたちなので、私が見たのは「比較的豊かな家庭」の一例に過ぎません。しかし、人生が仕事に塗りつぶされても仕方ないような環境にいた私には、この生活スタイルがとても輝いて見えました。また、男女平等度ランキングで中国が日本より上位にあることも、このライフスタイルと関係しているのでしょうか。残業の無い生活は、家事育児の負担平等化をもたらします。私も何度か、「お父さん」がつくった夕飯を頂きました。とても美味しかったです。



瀋陽日本人補習学校の年明け

1月2日、補習学校で餅つきが行われました。

通常、授業は4時間ありますが、この日は2時間目までが学習で、3,4時間目は餅つきの時間でした。

3時間目ぐらいから、もち米を蒸す良い匂いが教室に漂ってきて、子どもたちはそわそわし通しました。

杵と臼は領事館からの借用品、蒸し器は保護者からの貸し出し、きな粉や餡など瀋陽では手に入りにくい食材は日系企業からのご厚意でした。

餅を捏ねた経験を持つ人があまりいなかったのですが、勇気ある保護者の方がその役を買って出てください、子どもたちは楽しそうに杵を手にしていました。

勉強も大事ですが、たまにはこういう楽しみもないと学校自体が面白く無くなってしまいます。子どもたちはこの日、大いに楽しみ、食べ、満足して帰宅することができたことでしょう。

こういった行事を行うにあたっては、保護者の皆様をはじめ、多くの方々の協力が必要になります。校長先生は日ごろからあちらこちらに挨拶に行き、酒を酌み交わして人脈作りに努めていらっしゃるそうです。

異国で暮らしていると、個人的つながりで助けてくれる人をいかに多く作っておくかということが大事になってきます。

補習学校に通う子どもたちがこれからも楽しい思い出をたくさん作れるよう、大人として頑張らなければならないと思いました。



劇場へ



年明けに、市内でも有名な劇場、遼寧大劇院に連れて行ってもらう機会がありました。

保護者の運転する車に乗って劇場の駐車場に入った途端、「券を持っていますか？」と係員の人に聞かれ、私は「駐車券のことかな」と思ったのですが、実は観劇チケットのことだったとわかり、驚きました。

駐車場だけでなく、劇場周辺の至る所で「チケット要りませんか」と券を売り歩く人たちがいました。

演目は歌、ダンス、合奏、雑技などで、テーマは「春」となっていますが、それぞれの内容にストーリー的繋がりはありません。このような催しを日本語で何と言ったら良いのか分かりませんが、次々と演者が入れ替わってショーを披露してくれるので、見ていて飽きませんでした。

場内は撮影禁止だったので、残念ながら写真はありませんが、衣装も演出も凝っていて、楽しい一夜を過ごすことができました。

外国人である私に、「言葉が分からなくても楽しめるものを」と招待してくださった方には本当に感謝しています。

てつれい 鉄嶺へ

鉄嶺市は瀋陽から鉄道で約1時間、バスなら2時間の所にある街です。この街にある朝鮮族高級中学には、JICAから派遣された日本語教師が勤務しています。

日帰りできる距離なので、鉄嶺まで足を伸ばして行ってみました。

鉄嶺市朝鮮族高級中学には、韓国からの留学生も滞在しており、日本人教師の宿舎も同じ建物内にありました。外は大変寒かったのですが、室内は床暖房が効いており、私の宿舎よりもかなり暖かかったです。

「せっかく冬に来たのだから、椅子スケートなんかどうですか？」と言われて行ってみたのが右下の写真の場所です。

凍結した川がそのままスケート場になっていました。

5元(約100円)で椅子とストックを借りて椅子スケートを、20元(約400元)で大きな浮輪を借りて坂から滑って遊ぶことができます。

運動神経の良し悪しに関係なく楽しめる場所でした。

あちらこちらでホットミルクティーを売っているのですが、それを飲んで暖を取ることもできるのですが、如何せんこの日の最高気温は氷点下17度。身体を動かしていても手足が冷えて痛くなってきます。1時間程度で限界を感じて引き返しました。

しかし、日本ではできない体験であるうえ、羊にそりを曳かせるコーナーもあったので、機会があったらまた行ってみたいと思っています。

